

## ニレクワガタハバチ

春から秋にノニレ（＝マンシュウニレ）の葉を食べる緑色のイモムシ（幼虫）。体長最大8mm。

まれにノニレに多発する。ハルニレにもつくが、多発は観察されていない。



1. 老齢幼虫，体長8mm. 1991/7/12.



2. 被害. 1991/7/12.



3. 繭，長さ8mm. 1991/7/17. 葉上.



4. 雌成虫，体長6.5mm.

1～4. 新得町の庭園のノニレに多発した個体群.

【学名】 *Aproceros leucopoda*

【分類】 ハチ目 (Hymenoptera) , ハバチ亜目 (Symphyta) , ミフシハバチ科 (Argidae)

【分布】 北海道.

### 【特徴】

幼虫は終齢で体長8mm. 体は黄緑色. 頭部を横から見ると上下に黒線が走る. 腹部を浮かせて, 胸脚だけで葉にしがみついている.

成虫は体長6～7mm. ほとんどが雌. 体は黒, 胸脚は淡い黄色. 翅 (はね) は黒っぽい.

### 【生態】

宿主: ニレ属 (ノニレ, ハルニレ).

新得町の庭園のノニレで1991～93年に多発した.

観察結果は次の通り（原秀穂，未発表資料）。年4世代。成虫は5月中下旬，7月上中旬，8月上旬，9月上旬に出現，老齢幼虫が6月下旬，7月下旬，8月下旬，9月下旬にみられた。成虫は雌ばかりで，雄は1頭が採れただけである。このため産雌単為生殖を行なうと考えられる。雌成虫は卵を葉縁の表皮下に1個ずつ産め込む。幼虫は枝先の若い葉を好んで食べる。幼虫は老熟すると枝や葉の上あるいは地表に網状の繭を作り，その中で蛹化する。ただし，越冬の際の繭は地表下のごく浅いところに作られ，2層からなり，表層は網状に内層は密に紡がれる。この繭内で前蛹となって越冬する。なお，美唄市ではハルニレに春みられるが，夏以降は観察されない。ハルニレはノニレに比べ早い季節に伸張を止め，葉が硬化することに関係すると思われるが調査していない。

#### 【被害と防除】

多発例はほとんど記録がないが，これはノニレの植栽が少ないせいであろう。本種は1939年にノニレで発生した北海道産の標本に基づき新種として記載された種であることから，古くから多発例があったと考えられる。1991～1993年，新得町の庭のノニレ被害木は継続的な激しい食害により枝枯れが生じた。

幼虫をみつけたら取り除いて駆除する。

なお，道外産の樹種は思わぬ病虫害が発生することがあるので，こまめに管理できない環境下への植栽は避けた方がよい。

#### 【文献】

1939. Takeuchi, K. A systematic study on the suborder Symphyta (Hymenoptera) of the Japanese Empire (II). *Tenthredo*, 2: 394-439. (原記載, 形態, 寄主)
1949. Takeuchi, K. A list of the food-plant of Japanese sawflies. *Trans. Kansai. Ent. Soc.*, 14: 47-50.
1960. 井上元則. 林業害虫防除論, 下巻(1): 1-91. 地球出版, 東京.
1967. 奥谷禎一. 日本産広腰亜目(膜翅目)(1). *日本応用動物昆虫学会誌*, 11: 43-49.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ニレクワガタハバチ [mifusi/nirekuwa/kaisetu.htm](http://mifusi/nirekuwa/kaisetu.htm)

「文章」原秀穂，北海道立林業試験場，1994/1/24～2001/8/23.

1yochu.JPG, 1higai.JPG, 1mayu.JPG, 1seichu.JPG

「写真1～4」原秀穂，北海道立林業試験場，1991.

「写真4の種の同定」篠原昭彦博士，国立科学博物館，1991.